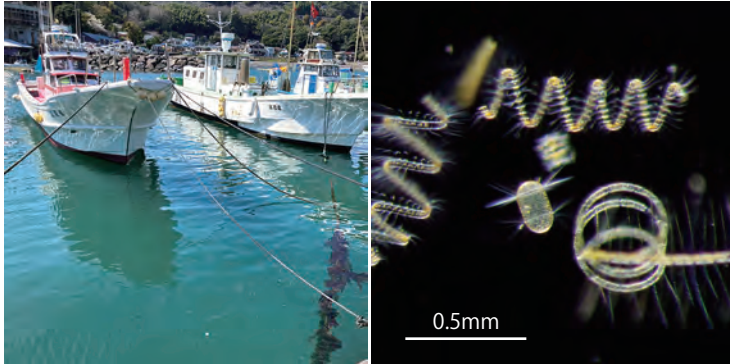


まなづる 海の月報

トピック まなづるの海 海中にも春の気配、「春濁り」はじまる



青緑色に見える海(左、2021年3月撮影)、植物プランクトン珪藻類の顕微鏡写真(右、写真提供:横浜国立大学臨海環境センター下出教授)

あちらこちらで花が咲き、真鶴町内はまさに春爛漫となりました。海にも春の兆しの「春濁り」が見られるようになり、冬の透明で青い海に比べると、青緑色に濁ってきています。この濁りの正体は、主に大量に増えた植物プランクトンの珪藻のなかまです。珪藻類はガラス質の殻に包まれた細胞を持ち、繊細で精巧な美しい形をした生物です。

植物プランクトンは日光と二酸化炭素、海水中の栄養を利用して光合成を行なって増えます。冬は日照時間が短いのでプランクトン量は少なく海水は透明ですが、春になり日照時間が伸びると、冬の間消費されなかった海水中の栄養分をたっぷり利用して、光合成を盛んに行い、一気に増殖するようになります。その数は膨大で、小さなプランクトンでも海の色を緑色に変えるほどの量になります。

植物プランクトンは、動物プランクトンの食物になり、さらに小魚、大型の魚類へとつながる海の生態系の起点になっています。春の植物プランクトンの増殖後は、動物プランクトンが増え、魚や他の生物も多く見られるようになり、魚の水揚げも多くなって、海も賑やかな季節を迎えます。

海中の様子

海をただようプラスチック、行く末は・・・

真鶴の海岸に漂着するプラスチックゴミは、海流や地形のおかげで全国的に見ると少ない方ですが、沖から陸に向かう風が吹くと、たくさんの量が吹き寄せられることがあります。海洋プラスチックゴミはウミガメ等の生物が間違っ

て食べてしまうことが問題となっています。また、最近では、海中で波や紫外線の作用により細くなったマイクロプラスチックが、生物の体内に取り込まれることがわかってきました。プラスチックには有害な物質を含むものもあり、生物への影響が心配されています。海を漂うプラスチックのほとんどは、普段私たちが生活する陸から河川を通じて流れ込みます。ポイ捨てしないことはもちろんのこと、プラスチックゴミが風で飛ばされないように気をつけることも大切です。



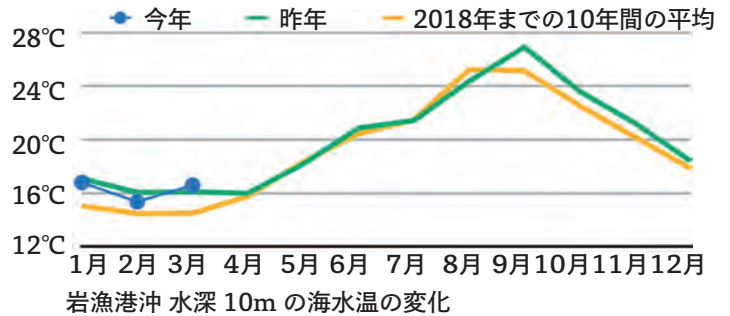
海にただようプラスチック (2021年2月、真鶴町にて撮影)

真鶴の海況

例年より温かい海、春の便りも一足早く

3月の岩漁港沖10mの水温は16.6℃となり、3月の水温としては、過去10年の調査記録のうちもっとも温かくなりました。この温かさが影響しているのか、真鶴漁協の定置網では、春の魚が例年よりも早く水揚げされ始めています。

< 情報提供: 横浜国大 臨海環境センター >



まなづるの漁獲情報

サワラなど春の魚に混じって、深海魚も!



イバラヒゲ (体長 50cm 程度)

今年の春は例年より早くサワラが水揚げされました。「鯖(サワラ)」は、字のごとく春を代表する魚ですが、春の初めのサワラの水揚げは、この後、盛漁期がやってくるといいうれしい知らせでもあります。水揚げ量も魚種も増えてくるこれからの季節が楽しみです。

今回ご紹介するのは、深海魚のイバラヒゲです。定置網ではなく、深場の釣り漁により水深 1,000m から揚がりました。黒い体はざらざらとした硬い鱗に覆われ、暗い深海でわずかな光をとらえるための深海魚に特徴的な大きな目を持ち、これまた大きな口でイカなどを食べています。迫力ある姿に反して身は白くてあっさりとした味ということで、漁協職員さんのおすすめ通り、鍋にしておいしくいただきました。< 情報提供: 真鶴町漁協 >

町立遠藤貝類博物館 4月中旬~5月のイベントスケジュール

- 4月17日(土) 海のミュージアム「磯の生物観察会」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【要申込・有料】
- 4月29日(木・祝) 海のミュージアム「磯の生物観察会/海の自然実感教室」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【要申込・有料】
- 5月2日(日) 海のミュージアム「磯の生物観察会」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【要申込・有料】
- 5月15日(土) 海のミュージアム「磯の生物観察会/海の自然実感教室」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【要申込・有料】
- 5月29日(土) 海のミュージアム「磯の生物観察会/海の自然実感教室」
三ツ石海岸・町立遠藤貝類博物館【要申込・有料】

町立遠藤貝類博物館は4~5月は土・日・祝のみの開館となります。詳細はHPをご覧ください。

まなづる 海の月報は、町立遠藤貝類博物館 HP からダウンロードができます。プリントしていただいでるの掲示・配布歓迎です。